

# 地域・社会への責任

総合バイオマス企業として新たな製品を創出し、事業を拡大していく日本製紙グループは、広大な森林を育成・管理し、大規模な生産拠点を持つことから、その地域と働く人たちに大きな影響力があります。地域との共生は、当社グループの持続性にとって不可欠です。



丸沼高原の植樹

評価指標	目標	達成状況(2016年度)
<b>重要課題 地域・社会との共生</b>		
コミュニケーションの機会	地域・社会から事業への理解を得る	学校や町内会など地域団体の見学会受け入れ、イベント共催による地域との交流など
ステークホルダーからの評価	私たちは社会の一員として、誇りを持って社会全体の発展に貢献する活動を行います(社会貢献活動の理念)	活動に関わったステークホルダーの皆さまから、さまざまな意見・評価を収集(活動の改善に活用)

## 方針とマネジメント

基本的な考え方 ..... 62

## 地域・社会との共生

就業支援 ..... 63  
 先住民への配慮 ..... 63  
 環境保全活動 ..... 63  
 科学技術の振興 ..... 63  
 福祉活動の推進 ..... 64  
 地域美化活動 ..... 64  
 社会見学の機会の提供 ..... 64

## コーポレートアイデンティティの共有

社有林の活用 ..... 65

# 方針とマネジメント

地域の方々に信頼され、親しまれる企業であるために、各地でさまざまな社会貢献活動を続けています

## 基本的な考え方

### 社会全体の発展に貢献し地域と共生します

日本製紙グループは社会の一員として社会全体の発展に貢献したいと考えています。必要とされる製品の供給を続けるとともに、地球環境の保護、文化や地域社会の発展にも役立ちたい——そのための活動を積み重ねていくことが、社会から信頼を得て、地域と共生しながら事業活動を続けていくことにつながります。

国内外でのさまざまな取り組みは、工場周辺の清掃活動、植林地域での就業支援など地域に根ざした活動や、社有林を活用した「森と紙のなかよし学校」の実施、工場見学など、グループの資源を活かした活動にも及びます。

#### 社会貢献活動の理念と基本方針

(2004年4月1日制定)

##### 理念

私たちは社会の一員として、誇りを持って社会全体の発展に貢献する活動を行います。

##### 基本方針

1. 文化の継承・発展に寄与する活動を行います
2. 地球環境の保護・改善に貢献する活動を行います
3. 地域社会の発展に役立つ活動を行います

#### 具体的な活動テーマ

- グループ各社の工場および海外現地法人における地域活動の充実
- グループの専門性や資源を活かした活動の推進
- 従業員が主体となって取り組む社会貢献活動の推進
- 日本国内の社有林(約9万ヘクタール)の有効活用
- 社内外への積極的な広報活動

#### ● 社会貢献活動の推進体制

日本製紙グループでは、CSR本部が中心となって、グループ全体の社会貢献活動を推進しています。グループ各社においては、社会貢献担当者をそれぞれ選任しています。各担当者は、従来の地域貢献活動を把握するとともに、それらの充実に努めています。

#### 日本製紙グループの主要な社会貢献活動一覧

主な取り組み	具体例	記載ページ
<b>地域・社会に関する活動</b>		
地域美化活動	旭山動物園での「ありがとう大作戦」	64
地域の安全・防災	子ども110番パトロール事業	—
	交通安全への取り組み	56
	消防団への参加	—
地域文化の保全	飛鳥山薪能の運営支援・協賛	WEB
先住民への配慮	先住民へのハーブ自生地開放	63
地域イベントの開催・参加	お祭りなど地域行事への参加・協賛	WEB
	所有する厚生施設(体育館など)の一般への開放	—
	夏祭りなどイベントの開催	—
福祉活動	ピンクリボン運動を支援するコピー用紙を販売	64
	社会福祉団体のイベントへの参加・協賛	—
	社会福祉団体の製品の購入	—
	チャリティー草競馬の会場提供	—
社会教育の機会提供	CSR講演会(公開セミナー)の開催	—
科学技術の振興	藤原科学財団への支援	63
災害時の支援活動	義援金や支援物資の提供など	WEB
<b>環境に関する活動</b>		
植樹活動	植樹活動の実施・参加	65
生物多様性の保全	独自技術「容器内挿し木技術」の活用	46
	シマフクロウの生息地保全と事業の両立	45
	「シラネアオイを守る会」の活動支援	46
	「ふくしま森の町内会」活動の推進	29
環境保全活動	川をきれいにする活動	63
リサイクル活動の推進	「リサイクルプラザ紙遊館」の運営	WEB
	リサイクル推進団体の支援	WEB
	紙パックリサイクル	43
	木屑リサイクル	WEB
地域への説明責任	環境リスクコミュニケーション	34
<b>教育に関する活動</b>		
社会見学の機会の提供	工場見学の受け入れ	64
社有林の活用	「森と紙のなかよし学校」の開催	65
就業支援	インターンシップ、職場体験の受け入れ	64
	地域の人々の就業活動を支援	63
従業員による授業	出前授業、学校授業への協力	64
音楽を通じた教育機会の提供	札幌ポップスコンサートへの児童・生徒ご招待	WEB
スポーツを通じた教育機会の提供	野球大会の開催	—
	アイスホッケー大会の開催	—
	福知山マラソン協賛	—
教育現場の製品提供	教育機関への紙・印刷物の提供	—



#### ▶ 地域・社会との共生

<http://www.nipponpapergroup.com/csr/society/activity/>



# 地域・社会との共生

地域と共生しながら事業活動を続けていきます

## 就業支援

### 事例

#### 地域の人々の要望に沿った講習会を開催 (ブラジル AMCEL社)

アムセル社は、広大な面積の土地を保有しており、地域に住む人々との協調、対話の深化に努めています。その一環として、地域の方々から就業や生活などのために学びたいことを聞き取り、2014年から講習会を主催しています。

2016年度はAmapá(アマパ)、Santana(サンタナ)、Ferreira Gomes(フェレイラゴメス)、Itaubal(イタウバウ)、Tartarugalzinho(タウタウガウジーニョ)の5地域で、それぞれ「飲料水の濾過」「パンの製造」「健康食」「魚の養殖」「伝統陶器」「手芸」をテーマに、アムセル社が招聘した専門家を派遣して講習会を開催しました。各講習会は3~6日間の内容で、合計600人以上が参加し、参加者から「実際の生活に役立つ」と好評を博しました。



健康食講習会



手芸講習会

## 先住民への配慮

### 事例

#### 先住民へのハーブ自生地開放 (チリ Volterra社)

チリ南部では、先住民マプーチェ族が、古くからの固有の伝統文化を守りながら生活しています。近年、薬用として用いられているハーブの自生地帯が、農地化・宅地化などによって少なくなっています。

ヴォルテラ社は保護活動の一環として、社有地内の希少なハーブ自生地帯を保護し、先住民の利用に開放しています。



自生のハーブ Ñanco(ニャンコ)

## 環境保全活動

### 事例

#### 吸川をきれいにする活動 (北上製紙(株))

北上製紙(株)では2004年度から、用排水に利用している吸川の川床を清掃しています。月に1~2回の頻度で、関係会社を含む従業員が総勢20~30人で活動しています。過去に排水トラブルを起こして近隣の方々にご迷惑をかけたこともあり、2001年、水質の安定化を目的として工場に酸素活性汚泥処理設備を設置、2002年には工場のある一関市と環境保全協定を結び、日々細心の注意を払って水質の管理を行っています。

また、一関市内の行政区長を中心とする市民団体「吸川をきれいにする会」の役員の方々と毎年1回、意見交換会を開催しています。会合では、川床清掃のほか排水の水質改善への取り組みに対し、真摯な活動として感謝の言葉をいただいています。



吸川の川床清掃

## 科学技術の振興

### 事例

#### 藤原科学財団への支援 (日本製紙(株))

(公財)藤原科学財団の「藤原賞」は、日本のノーベル賞ともいわれ、科学技術の発展に卓越した貢献をした日本の科学者を顕彰する学術賞です。創設者の藤原銀次郎翁が日本の科学技術の振興に貢献してきた精神を受け継



写真中央が北川副院長/特別教授、向かって右から2人目が職員教授

ぎ、日本製紙(株)は財政的な支援を続けています。

「第58回藤原賞」では、2017年6月、京都大学高等研究院の北川 進副院長/特別教授および東京大学大学院の磯貝 明教授に、賞状とメダル、副賞の1,000万円が贈られました。

# 地域・社会との共生

## 福祉活動の推進

### 事例

#### ピンクリボン運動を支援するコピー用紙を販売 (日本製紙(株))

日本製紙(株)は、認定NPO法人J.POSH(日本乳がんピンクリボン運動)が進める「ピンクリボン運動」の趣旨に賛同し、2016年度からオフィシャルサポーターとなりました。それにとともに、新ブランド「ピンクリボンPPC」の販売を開始。乳がん啓発の象徴であるピンクリボンをパッケージにデザインして「ピンクリボン運動」の認知向上に貢献するとともに、「ピンクリボンPPC」のコピー用紙の売上の一部をJ.POSHに寄付しています。

今後も、消費者の皆さまに長年親しまれてきたコピー用紙を通じて「ピンクリボン運動」の啓発を支援していきます。



ピンクリボンPPC

## 地域美化活動

### 事例

#### 旭山動物園での「ありがとう大作戦」 (日本製紙(株)北海道工場旭川事業所)

旭川事業所では、毎年「ありがとう大作戦」と題したボランティア活動を旭川市旭山動物園で実施しています。

この活動は、地域への感謝を込めて2009年度に開始したものです。9回目となる2017年度は、同事業所および関係会社の従業員と家族130人が参加しました。

旭山動物園は斜面に立地しており、冬には道がとても滑りやすくなります。転倒を防ぐために砂を撒き、春になって雪が融けた後に残った砂を回収・再利用します。作業は竹ぼうきやスコップ



大勢が参加しての清掃作業

を使って小さな子ども大人と協力して行い、開園時刻前に終了するように一致団結して進めます。

今後も地域のために活動を継続していきます。

## 社会見学の機会の提供

2016年度は14,374人(うち学校関係6,884人)が、海外を含む日本製紙グループ各社の見学をしました。

### 事例

#### 地域中学校職場体験の受け入れ (日本製紙総合開発(株))

東京都は、2005年度から「わく(Work) わく(Work) Week Tokyo(中学生の職場体験)」を実施しています。これは、都内全ての公立中学校の生徒が5日間程度、学校を離れて地域商店、地元産業、民間企業、公的施設などで実際に職場体験をするものです。

東京都北区で商業施設「王子駅前サンスクエア」を運営している日本製紙総合開発(株)は、近隣中学校の要請に応じて毎年生徒を受け入れ、フロントでの来客応対など、一連の仕事を体験していただいています。

中学生からは毎回丁寧なお礼状が届き、従業員の励みになっています。今後も皆さまに愛される施設として地域に貢献し続けていきます。



設備の点検・清掃

### 事例

#### 工場見学と小学校の授業への参加 (日本製紙クレシア(株))

日本製紙クレシア(株)開成工場は、小学校社会科の「工場で働く人と仕事」で工場見学受け入れと授業への参加を毎年実施しています。授業への参加では、学校に伺い「消費者の要望に応えるためにしている努力や工夫について」というテーマで、お客さまのニーズに合った商品づくりをしていることを説明し、保湿ティッシュ「クリネックス®アクアヴェール」のなめらかさやしなやかさなど、ティッシュの特徴について子どもたちに体験していただきました。授業プログラム終了後には子どもたち全員からお礼の手紙をいただいたり、工場周辺で「こんにちは」と声をかけられるなど交流が続いています。これからも積極的に地域貢献活動を続けていきます。



従業員による授業



# コーポレートアイデンティティの共有

日本製紙グループらしさを地域の方々と従業員が体感できる活動を実施しています

## 社有林の活用

### 事例

#### 毎年「森と紙のなかよし学校」を継続開催(日本製紙(株)、日本製紙総合開発(株))



社有林散策

「森と紙のなかよし学校」は日本製紙(株)の国内社有林(約9万ヘクタール)を活用した、日本製紙グループ独自の自然環境教室です。社有林の豊かな自然に触れ、「森」と生活になくてはならない「紙」とのつながりを体験してもらう機会を提供を目的として、2006年10月に群馬県の菅沼社有林(丸沼高原)でスタートしました。

「森と紙のなかよし学校」は、プログラム全体を従業員の知識と経験を活かして企画・運営しています。グループ従業員のガイドによる森林ハイキングや、森で拾ってきた小枝を材料にした紙づくりなど、参加者が楽しめるように趣向を凝らしてい

#### 参加した小学生の声(2016年9月)



参加者全員で記念撮影

森で拾った木から紙をつくりました。紙はこうやってつくるんだと初めて知りました。

いろいろな花や木があつてうれしかった。

ます。参加者は一般から公募しており、募集や当日の引率などで(公社)日本フィランソノピー協会の協力をいただいています。菅沼社有林ではスタートから2016年度まで21回、一般親子、地元の高校生など計700人が参加しました。

また、2007年からは日本製紙(株)八代工場を中心に熊本県の豊野社有林で、「豊野・森と紙のなかよし学校」を地域に根ざした活動として毎年実施しています。豊野ではプログラムのひとつに工場見学を織り込むなど、プログラム構成を開催地区ごとに工夫しています。

### 事例

#### 「丸沼高原 植樹2017」を開催(日本製紙(株))

日本製紙(株)は、豊かな森林を未来に残していくための取り組みを進めています。その一環として2010年5月から群馬県の菅沼社有林で植樹活動を行っており、2017年5月に6回目となる「丸沼高原 植樹2017」を開催しました。東京地区を中心に参加者を募り、日本製紙グループ内外から約100人が参加しました。

参加者たちはスタッフの指導のもと移植ごてを使ってブナやミズナラなど6種類、計1,000本の苗木を植えました。

親子でとても貴重な経験をすることができました。



参加者による植樹

**木**とともに未来を拓く